

DXによる効果的で質の高い学修の実現に向けた指標

教育力研究開発機構

アウトプット

1. 教育に係るDXに関して、異なるテーマの講演会を**毎年**実施し、公開する。
2. 本学の教員を対象に、DXによる授業設計や授業運営（反転授業やICTツールの活用）等を支援する研修を**毎年**実施する。
3. 教育力研究開発機構のWebサイトにて、DXによる授業実践事例、ならびにICTを活用した授業実践の解説記事などを公開し、情報を広く提供する。また、情報は定期的に追加ならびに更新を行う。
4. ICTを活用した科目について、**50%以上の実施を目指す**（対象：学士課程の授業）。

アウトカム

1. 授業形式（対面授業、ブレンド型授業、遠隔授業）およびICT活用の有無ごとに、成長実感、授業への満足度、グレードポイントを分析する。以下の評価項目においてブレンド／遠隔授業とICTを利用した授業において**目標値以上**へ到達することを目指す。

評価項目	出典源	目標値
成長実感	授業アンケート設問3・4	回答の7選択肢を1～7点に割り当てたとき、平均5.8以上
授業への満足度	授業アンケート設問11	回答の7選択肢を1～7点に割り当てたとき、平均5.8以上
グレードポイント*	成績データ	平均2.8以上

* グレードポイントは、成績のS評定を4点、A評定を3点、B評定を2点、C評定を1点、EならびにF評定を0点に数値化したもの。

※授業形式は、授業アンケート設問14の回答に基づいて、「すべて対面」「ブレンド」「すべて遠隔」の3形態に分ける。

※「ICT活用」の有無は、シラバス上のICT活用の項目（クリッカー、タブレット端末、その他、実施していない）に基づいて判断する。

※授業アンケートとは学士課程における授業アンケートを指す（設問番号は2024年度実施のもの）

2. 全学教員アンケートやFD研修・新任教員研修、ならびに講演会等で行うアンケート結果を用いて、当該研修・講演会の内容を、日々の授業運営に利活用できたか調査する。

以下の〈講演会直後〉のアンケート項目を、当該研修直後に実施する参加者アンケートに追加して実施するほか、半年後（1 Semester 終了後）に、当該アンケート回答者宛に〈講演会から半年後の追跡調査〉のアンケートを送付し、回答してもらう。

それぞれの設問内容について、回答結果が**目標値以上**へ到達することを目指す。

〈講演会直後〉

設問内容	回答選択肢	目標値
{講演内容}を、今後授業で利活用してみたいと思いますか？	5件リッカート	平均4以上
{講演内容}を利活用した、具体的な授業計画が立てられそうですか？	5件リッカート	平均4以上

〈講演会から半年後の追跡調査〉

設問内容	回答選択肢	目標値
{講演内容}を、これまでの授業でどの程度、利活用しましたか？	- よく利活用した - ときどき利活用した - あまり利活用しなかった - 全く利活用しなかった	ときどき利活用した・よく利活用したの回答割合が60%以上
{講演内容}を参考にして、科目の目的や到達目標の達成につながるような授業づくりができたと感じますか？	5件リッカート	回答の5選択肢を1～5点に割り当てたとき、平均4以上
{講演内容}を利活用した授業は、学生の学習成果の向上に役立ったと思いますか？	5件リッカート	回答の5選択肢を1～5点に割り当てたとき、平均4以上
{講演内容}を利活用することで、従来と比較して学生の学習行動や態度が変わったと思いますか？	5件リッカート	回答の5選択肢を1～5点に割り当てたとき、平均4以上